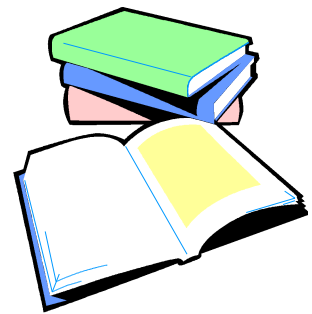


佐賀県教育センター

論文表記上の留意点 (語例集)



(H30. 4. 13 改訂)

1 表記上の注意

(1) 漢字, 仮名等の標記

漢字, 仮名等の表記は次による。

- ア 漢字 常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）の本表及び付表
- イ 仮名遣い 現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）
- ウ 送り仮名 送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号、昭和56年内閣告示第3号）
- エ ローマ字 ローマ字のつづり方（昭和29年内閣告示第1号）
- オ 外来語 外来語の表記（平成3年内閣告示第2号）

また、「学習指導要領」, 「学習指導要領解説」の記述を参考にする。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科
コミュニケーション	ハードウェア	コンピュータ	レクリエーション	ボランティア	

(2) 「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	能力・適性	国家・社会	編成・実施
教育内容・方法	産業・経済	知・徳・体	役割・立場	教材・教具
技術・技能	把握・分析	実践的・体験的	組織的・計画的	施設・設備
改善・充実	※「・」を使用しない	※観察, 実験	※知識及び技能	

* 上記の表現については、原則である。したがって、前後の文章によって判断する。

(3) 句読点の使用

- ・ 読点は「,」または「、」を使用し、一つの論文中で統一する。
- ・ 特に、接続詞の後には、読点を打つ。
例 「また～」→「また, ~」 「そして～」→「そして, ~」
- ・ 長い文については、句点を打ち、幾つかの文に分ける。

(4) 数詞の扱い

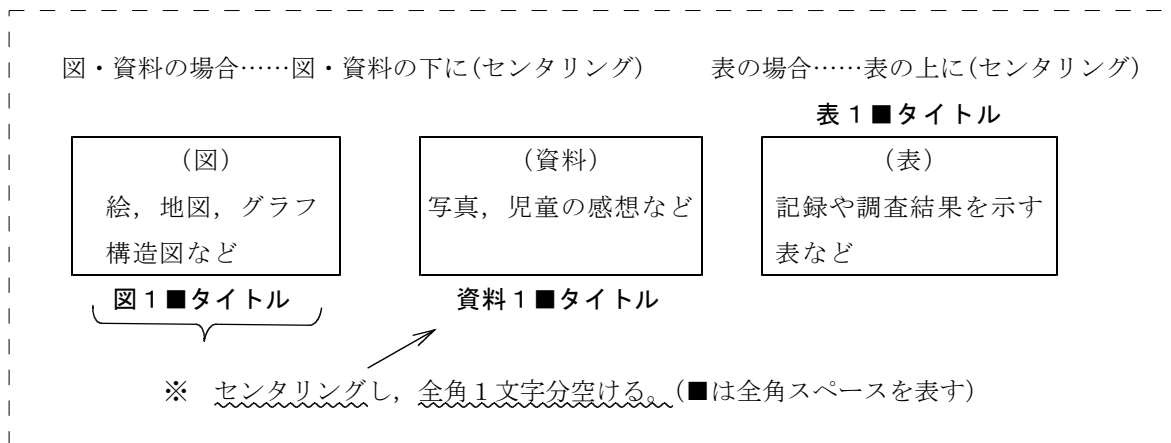
- ・ 序数として使う場合は、算用数字（1, 2, 3・・・）とする。
- ・ 慣用的な語は、漢数字とする。（一つ, 一人一人, 一斉, 二人三脚, など）
- ・ 1桁の数字は全角, 2桁以上の数字は半角で表記する。（3人, 25分, 100メートルなど）

(5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。（ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない）

(3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名はゴシック体とする。



(4) 引用の仕方

ア 引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に^①, ^② (上付1/4倍) の通し番号で示す。※^① 括弧、数字すべて半角

<例> ……であるが、梶田叡一は、「○○○…」^①と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号を最初に示すことで、引用した書籍や紀要と対応させる。

イ 引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合、初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。ただし、同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

ウ 引用文には、「 」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は、「…」(3点リーダー)を2文字分入れる。→「……」

<例> 「○○○……」(後略の場合)「……○○○」(前略の場合)

引用文中に「 」の記述がある場合は、『 』に置き換える。(「○○『○○』○○」)

引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

<例> 「……^{ママ}○○……」(○○は誤植の部分を表す)

エ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

オ 間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので、直接引用の方がよい。

(5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名、書籍名、発行年、出版社名(引用の場合はページ数も)の順で書く。

イ 引用のページは、そのページのみ場合はp. 7, 複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと- (ハイフン), . (ピリオド)は半角とする。記述例(1)参照。

ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ 書籍名には『 』を付ける。

論文の場合は「 」, その論文集(雑誌名)は『 』と併記する。記述例(2)参照。

なお、答申は、『 』, 教育センターのコンテンツも『 』を使用する。

オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。(西暦なら西暦, 元号なら元号)

西暦の場合は, 半角数字とする。

元号の場合は, 平成9年までは全角数字, 10年以降は半角数字とする。

カ 引用文献の記述例

《引用文献》

(1) ■山田■一郎 『総合学習のあり方』 ■1997年■教育書店■pp. 142-144 (または, p. 142)

(2) ■佐賀■太郎 『総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究』『川上大学大学院教育実践論文集』 ■2017年10月号

(3) ■佐賀県教育センター■ 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 ■平成26年3月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm

《参考文献》

・田中■淳一 『総合学習の理論』 ■2011年■大和書房

・浦川■仁一朗・森山■義太郎 『国語科の授業づくりを探る』 2013年 北館出版社

・松尾■信 『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』 ■2017年■教育図書社

1行で書けない場合は、
2行にまたがってよい。

書名の開始位置をそろえる。書名でなければ2行目は、『の真下から開始する。』

3 その他、表記上の注意

- ・項目を表す番号，アルファベットの後は1マス空ける。
- ・記号(○,・など)の後はスペースを空けず，2行目以降の文頭は1行目の文頭にそろえる。
- ・文中の2桁以上の半角数字や半角英数文字は，centuryやTimes New Romanに自動変換する場合があるのでMS明朝体になっているか確認する。

悪い例… PISA 学力調査，2017年，ALT，45分授業など

- ・英文字を使用する場合は，次のような表記にする。(原則)
英文や単語を書く場合は，語頭・文頭だけ大文字を使った半角明朝体…Web，“What's this?” など
単語の頭文字を組み合わせる意味を成すものは，全て大文字の全角明朝体…ALT，TT，ICTなど
- ・英文を入れる場合は，カギ括弧(「○○」)ではなく，quotation mark (“○○”) でくくる。
- ・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。
<例> [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください] [資料が欲しい・発表してほしい]
- ・網掛けは，濃淡に注意する。
- ・「」に文章が続く場合は，句点(。)を付けない。ただし，「」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。

<例>

……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」

(「」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。)

……事前のアンケートの中でA児は，「どう接していいかわからない」と答えていた。

(「」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。)

……B児は，「ピーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まっていくみたいだ」とつぶやいていた。

(「」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。)

- ・文中(箇条書きを含む)の()，「」は全角とする。

ただし、項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)

4 研究紀要等の表記について（語例集）

表中の、△は表外漢字・常用漢字外なので使用しない、〔 〕は望ましい語句、*は許容を示しています。

見出し	表記	備考	あと	後	後で～する
【あ】			あと	跡	苦心の跡、跡目
あいさつ	挨拶		あと	痕	傷痕
あいだから	間柄		あまり	余り	余りが出る
あいにく	あいにく	△生憎			余り良くない
あいまい	曖昧		あやしい	あやしい	～した余り
あいまって	あいまって	△相俟って	あやしい	妖しい	余りにも
あえて	あえて	あえて～する	あらかじめ	あらかじめ	怪しい人影
あきらめる	諦める		あらためて	改めて	△予め
あくる	明くる	明くる日	あらゆる	あらゆる	改めて～する
あげく	挙げ句	～した挙げ句	あらゆる	あらゆる	△所有
あける	明ける	夜が明ける	あらわす	表す	言葉に表す
	空ける	時間を空ける		現す	姿を現す
	開ける	窓を開ける	あらわれる	著す	書物を著す
あげる	上げる	品物を上げる		表れる	喜びの表れ
	揚げる	物価が上がる	ありか	現れる	太陽が現れる
	揚げる	船荷を揚げる	ありかた	在りか	△在り処、在処
	挙げる	歓声が揚がる	ありがた	在り方	
	～(て)あげる	一例を挙げると	ありがたい	有り難い	有り難がる
		国を挙げて			有り難み
		図書を貸してあげる	ありがとう	ありがとう	
あこがれる	憧れる		ある(連体詞)	ある	ある日
あざける	嘲る		ある(動詞)	ある	そこに問題がある
あたかも	あたかも	△恰も		有る	財源が有る
あたり	辺り	辺り一面			有り・無し
あたりまえ	当たり前			在る	日本はアジアの東に在る
あたる	当たる	予報が当たる		～(て)ある	書いてある
		～に当たり、	あるいは	あるいは	△或いは
		～に当たって、	あわせて(副詞)	併せて	併せてお願いする
あっせん	あっせん	△斡旋	あわせて(接続詞)	あわせて	あわせて、～
		〔周旋、世話〕	【い】		
あつらえる	あつらえる	△誂える	いう	言う	彼の言うこと
あて	宛	宛名、宛先		～いう	～という場合
		各学校宛て	いえども	いう	こういうこと
あてる	当てる	日光に当てる		いえども	〔～でも、～であっても〕
		当て外れ	いかす	生かす	△活かす〔活用する〕
	充てる	保安要員に充てる	いきおい	勢い	勢いが悪い

見出し	表記	備考			
いけい	畏敬			要る	保証人が要る
いく	行く	学校へ行く		居る	居場所、居所
	…(て)いく	実施していく		いる	関係者がいる ～している
いくつ	幾つ		いろいろ	煎る	煎茶
いくら	幾ら	幾ら考えても 全部で幾らか	いわば	いろいろ	△色々
いしゆく	萎縮		いわゆる	言わば	
いす	椅子		いわんや	いわゆる	△所謂
いずれ	いずれ	△何れ	【う】	いわんや	△況や [言うまでもなく]
いだく	抱く	△懐く	うえ		
いたす	致す	致し方ない	うかがう	上	作成する上で
	～いたす	繁栄を致した原因 御案内いたします	うかがう(聞く, 尋ねる, 訪問するの謙譲語)	うかがう	△窺う
いだす	いだす	見いだす	うた	伺う	成長がうかがえる 10時に伺います
いたすら	いたすら	いたすらに時間を 費やす	うたう		
いただく	頂く	御返事を頂きたい	うち	唄	長唄, 小唄
	～(て)いただく	報告していただく		うたう	条文にうたってあ る
いたって	至って	至って～である		内	部屋の内
いたる	至る	東京に至る		うち	そのうち ～のうち
		至る所に	うちわけ		知らないうちに
いちじ	一時	一時の出来心	うながす	内訳	
いちず	いちず	いちずに思う	うやうやしい	促す	
		△一途	うる	恭しい	
いちづける	位置付ける	△位置づける	うらやましい	得る	得るところ
いっこう	一向	一向に差し支えな い	うらやむ	羨ましい	羨望
			うんぬん	羨む	
いっさい	一切	一切関知しない	【え】	うんぬん	△云々
いっしゅう	一蹴		えさ		
いっしょ	一緒	一緒に行く	える	餌	
いっせい	一斉	一斉検査		得る	許可を得る やむを得ない
いっそう	一層	一層の努力	【お】		
いったん	一旦	一旦休憩する	お(接頭語)	お	お礼
いっぺんに	一遍に	一遍に～する			お願いします
いまさら	今更		おいて	おいて	△於いて
いまだ	いまだ	△未だ			～において
いやしくも	いやしくも	△苟も	おうせい		旺盛
いる	入る	気に入る 手に入れる	おおいに	大いに	大いに利用する

見出し	表記	備考			
おおかた	大方	大方の意見 大方まとまる	おり おりから おる	折 折から おる	その折 △折柄 △居る ～しております △了
おおぜい	大勢		おわり 【か】	終わり	
おおむね	おおむね	△概ね	か	か	3か月(1, 2か月)
おおよそ	おおよそ	△大凡 おおよそ2か月くら	かじょうがき	箇 箇条書	二, 三箇所
おかげ	おかげ	△お蔭 おかげで～	かい	かい	△甲斐 ～したかいがあつて
おこない	行い	△行ない	がいして	概して	概して良好である
おこなう	行う	△行なう 調査を行った	かいしょ	楷書	
おくびょう	臆病	臆する	かいよう	潰瘍	潰す
おさめる	収める 納める 治める 修める	目録に収める 注文の品を納める 領地を治める 学を修める	かえって	かえって	△却って かえって不便になる
おそらく	恐らく		かえりみる	顧みる	過去を顧みる
おそれ	おそれ	～のおそれがある	かえる	省みる	自らを省みる
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉		変える	観点を変える
おって(副詞)	追って			換える	名義を書き換える
おとさた	音沙汰	[便り, 音信]		替える	振り替える
おとな	大人			代える	書面をもってあいさつに代える
おのおの	各, 各々		かかる	かかる	△斯る
おのずから	おのずから	△自ら おのずから理解できる		かかる	[このような] △罹る 病気にかかる
おびただしい	おびただしい	△夥しい		係る	～に係ること
おぼしめし	おぼしめし	△思召し			△関る
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かかわり	関わり	△～にも関わらず
おもしろい	面白い		かかわる	関わる	
おもに	主に		かく	描く	図形を描く
おもむき	趣		かぐ	嗅ぐ	嗅覚
おもむく	赴く	任地に赴く	がけ	崖	断崖, 崖下
おもわく	思わく	△思惑	かける	掛ける	迷惑を掛ける
およそ	およそ	△凡そ			時間を掛ける
および(接続詞)	及び	A及びB			費用を掛ける
およぼす	及ぼす			懸ける	優勝を懸ける 賞金を懸ける

見出し	表記	備考			肝心な事柄 ～に関する～
	架ける	橋を架ける 電線を架ける	かんする かんぺき	関する 完璧	
かこく	苛酷	*過酷	【き】 きがかり	気掛かり	
かする	課する	税を課する	きぐ	危惧	
	科する	刑を科する	きする	期する	～を期して
かたがた	かたがた	お礼かたがた	きそん	毀損	
かたづけ	片付け		きたす	来す	支障を来す
かたづける	片付ける		きたる	来る	来る○月○日
かたわら	傍ら	歩道の傍ら	きづき(きづく)	気付き(気付く)	△気づき(気づく)
がち(接尾語)	～がち	～しがち ～ありがち	きはく	希薄	△稀薄
かつ	かつ	△且つ	きふ	寄附	
かつきてき	画期的		きまり	決まり	
かつこ	括弧		きゅうかく	嗅覚	
かつて	かつて	△嘗て	きゅうし	臼齒	
かつて	勝手	勝手に違う 勝手次第	きる	切る	
			きる	斬る	世相を斬る
かつとう	葛藤		きわまる	窮まる	進退窮まる 窮まりなき宇宙
かつぱつ	活発			極まる	不都合極まる言動
かな	仮名	片仮名, 平仮名 仮名遣い	きわめて	極めて	極めて大きい
			きわめる	究める	学を究める
かなう	かなう	△叶う, 適う	きんさ	僅差	
かなた	かなた	△彼方	【く】		
かならず	必ず		ください	下さい	資料を下さい
かまう	構う	構わない 費用に構わず お構いなく		ください	御指導ください
	～(て)もかまわ ない	外出してもかまわ ない	くだす	～(て)ください	問題点を話してく ださい
がまん	我慢		くみあわせる	下さ	判決を下す
かもしれない	～かもしれない	△かも知れない 間違いかもしれない	くみたてる	組み合わせる	
			くむ	組み立てる	
からめる	絡める		くらい	酌む	酒を酌む 事情を酌む
かろうじて	辛うじて			位	位する
かんがみる	鑑みる			～くらい(ぐら い)	位取り どのくらい
かんげき	間隙		くらべる	比べる	△較べる
かんじん	肝心	△肝腎 肝心要	くる	来る	人が来る

見出し	表記	備考			
			こけつ	虎穴	
			こころがけ	心掛け	
			ごぞんじ	御存じ	△御存知 御存じですか
くれぐれも くれる	～(て)くる くれぐれも くれる ～(て)くれる	寒くなってくる △呉々も △呉れる 資料をくれる 援助してくれる	こたえ (名詞) こたえる こたえる	答え 答える 応える	質問に答える 要望に応える (～に応じる)
くろうと	玄人		こっけい こと	滑稽 事	事を起こす 事に当たる
【け】 げ(接尾語)	～げ	惜しげもなく △～気		～こと 事柄	許可しないことがある 次の事柄について
けいがいか けいもう けた けっこう	形骸化 啓もう 桁 結構	△啓蒙〔啓発〕 3桁, 橋桁 結構な品物 結構です	ことがら ごと ごとく	～ごと ごとく ごとく	△毎 △如く 〔ように〕
けんさん けんそん けんばん	研さん 謙遜 鍵盤	けっこう役に立つ △研鑽	ことさら ことなる	殊更 異なる	殊更～する 意見が異なる ～を異にする
【こ】 ご(接頭語)	御～ ご～		ことに ことのほか こども ことわる このごに～ ごぶさた こむ	殊に 殊の外 子供 断る この期に～ 御無沙汰 混む 込む 籠もる	殊に優れている 断りの手紙 この期に及んで 電車が混む 負けが込む 閉じ籠もる
ごい こう こうばい ごうまん こうむる こうよう こえる	語彙 乞う 勾配 傲慢 被る 高揚 越える 超える	雨乞い 損害を被る △昂揚 山を越える 年を越す 100万円を超える額 1,000万人を	こもる ころ こんてい コンピュータ	頃 根底 コンピュータ	日頃 △コンピューター
こかんせつ ごく	股関節 ごく	超す人口 △極 ごく新しい	【さ】 ざせつ さいはい さいわい さかのぼる さき さきに	挫折 采配 幸い 遡る 先 さきに	幸いだ 幸い間に合った 先に立つ 先取り, 先んずる さきにお知らせ

見出し	表記	備考	さんろく 【し】	山麓	
さきほど	先ほど	△先程	しあわせ	幸せ	
さげすむ	蔑む		しいて	強いて	
ささいな	ささいな	△些細な	しいてき	恣意的	
ささげる	ささげる	△捧げる	しかた	仕方	仕方がない
さしあげる	差し上げる		しかる	叱る	※叱責, 叱咤
さしあたり	差し当たり		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしえ	挿絵		しげき	刺激	
さしさわり	差し障り		しごく	至極	至極もつともである
さしず	指図		しさい	子細	△仔細
さしずめ	さしずめ	△差し詰め			子細があつて
		さしずめ計画どおりに実施する	しじゅう	始終	始終～する
		紹介状を差し出す	しだい	次第	式次第
さしだす	差し出す				～する次第である
さしだしにん	差出人				次第に～する
さしつかえる	差し支える		したがう	従う	法律に従う
さしつかわす	差し遣わす		したがって(接続詞)	したがって	△従って
さすがに	さすがに	△流石に			したがって, ～
ざせつ	挫折		じつに	実に	
さっきゅう	早急	早急に手配する	しばしば	しばしば	
さっそく	早速	早速送付する	しばらく	しばらく	△暫く
さばく	さばく	△捌く	しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る
		品物をさばく			絞り染め
	裁く	罪人を裁く		搾る	乳を搾る
さほど	さほど	さほど重要でない			搾り取る
さまざま	様々		しまつする	始末する	書類を始末する
さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年	シミュレーション	シミュレーション	×シユミレーショ ン
さらなる(連体詞)	更なる(連体詞)		しめきり	締切り	申込みの締切り
さらに(副詞)	更に	更に検討する			締切日
さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～	しゃりょう	車両	△車輛
さる	去る	去るに当たって	しゅうちしん	羞恥心	
		去る○日	じゅうぶん	十分	△充分
さわやか	爽やか		じょうず	上手	
さわる	障る	気に障る	じょうぶ	丈夫	丈夫な体
		差し障る	しょせん	所詮	
	触る	展示品に触る	しりぞける	退ける	△斥ける
		手触りがよい	しろうと	素人	
さんけい	参詣		しんし	真摯	
ざんしん	斬新		しんしょく	侵食	△侵蝕

見出し	表記	備考	【そ】		
			ソ・ソウ	曾(曾)	曾祖父
			そう	沿う	意見に沿う 川沿いの家
しんせき	親戚				
じんだい	甚大	被害甚大		添う	連れ添う
しんちよく	進捗				付き添い
じんもん	尋問	△訊問	そうかい	爽快	
【す】			ぞうきん	雑巾	
すいせん	推薦		そうごう	総合	△総合
ずいぶん	随分	随分早く着いた	そうじて	総じて	
すえおき	据置き		そうそうに	早々に	
すえおく	据え置く		そうてい	装丁	
すき	隙	隙間	そうとう	相当	部長に相当する 相当難しい
すぎない	すぎない	～にすぎない			
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる	そうにゆう	挿入	
すくなくとも	少なくとも		そうめい	そうめい	△聡明 〔賢明, 賢い〕
すぐに	すぐに	△直に			
すぐれる	優れる	△勝れる	そち	措置	
すこし	少し		そっせん	率先	
すすめる	進める	交渉を進める	そば	そば	△側, △傍
	勧める	入会を勧める	そまつな	粗末な	
	薦める	候補者として薦める	それ	それ	それぞれ, それら それゆえ
ずつ	ずつ	1つずつ 少しずつ	そろう	そろう	△揃う *品揃え
すでに	既に	既に完成している	ぞんずる	存ずる	それがよいと存じ ます 御存じの～
すなわち	すなわち	△即ち			
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい			
すべて	全て	△総て	【た】		
すみやかに	速やかに	速やかに実施する	た	他	その他
すわる	座る	座り込む	たいがい	大概	大概大丈夫だろう
	据わる	目が据わる	たいした	大した	大したことはない 大して参考になら ない
【せ】					
せいとん	整頓		だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
せっかく	せっかく	△折角	たいせき	堆積	
せつに	切に	切に祈る	たいせつに	大切に	
ぜひ	是非	是非を論ずる 是非お願いします	たいそう	大層	大層明るい
せん	栓	消火栓	だいたい	大体	大体よい
せん	腺	涙腺, 前立腺,			大体のところは
せんさく	詮索		たいてい	大抵	大抵のことは分か る
せんぼう	羨望				

見出し	表記	備考			
		大抵雨になるだろ う	たぶん たまわる ため	多分 賜る ため	多分～であろう △為 ために ～のため
たいとう	台頭		だめ	駄目	駄目を押す
だいぶ(ん)	大分	大分増えた	ためす	試す	切れ味を試す
たいへん	大変	大変な人手 大変努力する	だれ	誰	
たえず	絶えず	絶えず行き来する	【ち】 ちいさな	小さな	
たがいに	互いに	互いに励まし合う	ちかごろ	近頃	
たぐい	類い		ちかづく	近づく	△近づく
たくさん	たくさん	△沢山	ちくいち	逐一	逐一報告する
たけ	丈	身の丈 思いの丈を述べる	ちなみに	ちなみに	△因みに
だけ	～だけ	調査しただけであ る	ちなむ	ちなむ	△因む
たしょう	多少	多少早くなる	ちみつ	緻密	
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる	ちょうだい	頂戴	
	訪ねる	知人を訪ねる	ちょうど	ちょうど	△丁度
		史跡を訪ねる	ちよっと	ちよっと	△一寸
ただ	ただ	△唯, 只	ちんでん	沈殿	△沈澱
ただし(接続詞)	ただし	△但し	【つ】 ついたち	一日 *12月1日	※月の始めの日と いう慣用句的扱い
ただちに	直ちに		ついで	次いで	
たち(接尾語)	～たち	△達 子供たち, 私たち ※友達…熟語とし て漢字	ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼 む
たちのく	立ち退く	立ち退き	ついては(接続詞)	ついては	△就いては
たちまち	たちまち	△忽ち	ついに	ついに	ついては, ~ △遂に
たつ	断つ	退路を断つ	つかう	使う	ついに完成する
	絶つ	縁を絶つ 消息を絶つ		遣う	機械を使う 重油を使う 心を遣う 気を遣う
	裁つ	生地を裁つ			小遣い銭
たて	盾	△楯			仮名遣い
たとえば	例えば		つかわす	遣わす	差し遣わす
たのもし	頼もしい		つき	～付き	折り紙付き
たび	度	度重なる 度々			尾頭付き
	～たび	このたび ～するたび	つぎ	次	顔つき, 目つき 体つき 次のとおり

見出し	表記	備考			
			つながる	つながる	△繋る
			つねに	常に	
			つもり	積もり	心積もり
つく	付く	次々と △附く		つもり	※見積り そのつもりだ
		利息が付く	【て】		
	着く	味方に付く 手紙が着く	てあて	手当	手当を支給する
		船を岸に着ける	ていしょく	手当て	傷の手当て
	就く	職に就く	ていねい	抵触	
		役に就ける	ておくれ	丁寧	
つぐ	次ぐ	事件が相次ぐ	てがかり	手後れ	
		取り次ぐ	でかける	手掛かり	
	継ぐ	跡を継ぐ	でき	出掛ける	
		引き継ぐ		出来	出来心, 出来事
	接ぐ	木を接ぐ			出来上がる
		接ぎ木			出来上がり
つくる	作る	おもちゃを作る	～でき	～出来	出来が良い
つくる	造る	船を造る	デキ	※溺	上出来, 不出来
つくる	創る	新しい文化を創り出す	できる	できる	※溺愛
		出す			△出来る
	つくり	*課題づくり			利用できる
		*授業づくり	てぎわ	手際	できるだけ～
づけ	～付け	○月○日付け	てごろ	手頃	手際が良い
		日付	てだて	手立て	手頃な大きさ
つける	付ける	条件を付ける	てはず	手はず	△手だて
		付け替える			△手管
		関連付ける	てびき	手引	手はずを整える
つごう	都合	都合で			指導の手引, 手引書, 手引きをする
		都合○名	てもと	手元	△手許
つたない	拙い		【と】		
つつしむ	慎む	身を慎む	といあわせ	問い合わせ	問い合わせをする
つづる	つづる	△綴る	～とう	～等	「など」と読ませたいときは仮名
		文をつづる	とうがい	当該	
		書類をつづり込む	どうくつ	洞窟	
*ぶんしょつづり	*文書綴り		どうし	同士	児童同士
つど	都度	その都度	どうじょう	同上	
つとめて	努めて	努めて早起きする	とうてい	到底	到底できない
つとめる	努める	解決に努める	とうとう	とうとう	とうとう決定した
	勤める	会社に勤める	とおり	通り	銀座通り, 一通り
	務める	議長を務める		～を通して	
		主役を務める			

見出し	表記	備考			
			とも	泊める	客を泊める
				共	共倒れ
					共に(副詞)
					共々(副詞)
	～とおり	次のとおりである		～とも	～とともに
とかく	とかく	従来どおり △兎角 とにかく とにもかくにも			～するとともに
					今後とも
とき	時	時の記念日			家庭や地域とも
	～とき	事故のときは連絡する	ともだち	友達	△共
		～したときに	ども(接尾語)	ども	私ども
とく	解く	問題を解く 疑いが解ける 会長の任を解かれる	ともなう	伴う	～に伴って
			とらえる	捕らえる	泥棒を捕らえる
			とらえる	捉える	機会を捉える
			とりあえず	取りあえず	△取り敢えず
	溶く	絵の具を溶く 地域社会に溶け込む			取りあえず御報告まで
とくに	特に		とりあげる	取り上げる	
どこ	どこ	△何処	とり入れる	取り入れる	
ところ	所	△処	とりかかる	取り掛かる	仕事に取り掛かる
	～ところ	現在のところ差し支えない	とりくみかた	取り組み方	
ところが(接続詞)	ところが		とりくむ	取り組む	
ところで(接続詞)	ところで		とりはからう	取り計らう	
とじる	とじる	△綴じる 紙をとじる	とりまとめ	取りまとめ	
			とりもどす	取り戻す	
	閉じる	門を閉じる	とりやめ	取りやめ	△取り止め
とつぜん	突然		とりわけ	とりわけ	
ととのえる	整える	身辺を整える 調子を整える	とりわけ	取り分ける	
	調える	晴れ着を調える 費用を調える	とる	取る	資格を取る 連絡を取る
とどめる	とどめる	△止める, △留める 記録にとどめる		採る	高校の卒業生を採る
					会議で決を採る
とはいうものの	とはいうものの			執る	事務を執る
とはいえ	とはいえ			捕る	式を執り行う
とめる	止める	息を止める	【な】	撮る	生け捕る
	留める	ボタンを留める 留め置く, 書留	ない	撮る	捕り物
					写真を撮る
				ない	△無い
					欠点がない

見出し	表記	備考			
			なるべく なるほど	なるべく なるほど	小さくなる なるべく早くする △成程
		行かない	【に】		
		有り・無し	におう	匂う	梅の花が匂う
	亡い	亡くなる	におう	臭う	生ゴミが臭う
		亡き人	にぎわう	にぎわう	△賑わう
ないし	ないし	△乃至	にくい	憎い	△～憎い, ~難しい
		北ないし北東の風			言いにくい
なお	なお	△尚, 猶	になう	担う	△荷う
		なお, ~			双肩に担う
		なおさら	にらむ	にらむ	△睨む
なか	中	箱の中, 括弧の中			にらみ合わせる
ながい	長い	長い道, 気が長い	にわか	にわか	△俄
	永い	末永く契る			にわかにならぬ
なかなか	なかなか	なかなか現れない	【ぬ】		
なかば	半ば	半ば諦める	ぬぐう	拭う	
ながら	ながら	△乍ら	【ね】		
		歩きながら話す	ねりなおす	練り直す	
なごり	名残		ねらい	狙い	*授業や指導において「ねらい」と仮名表記
なさけ	情け	情けない			
なざし	名指し		【の】		
なされる	なされる	△成される	のうり	脳裏	△脳裡
なじむ	なじむ	△馴染む	のがす	逃す	逃れる
なす	なす	△為す	のける	のける	△除ける
		なすすべもない	のちほど	後ほど	後ほど連絡する
なぜ	なぜ	△何故	のつとる	のつとる	△則る
～など	～など	△等は「とう」と読む			[基づく, 従う, よる, 即する]
ななめ	斜め				
なにとぞ	何とぞ	△何卒	のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
なにぶん	何分	何分よろしく			学力が伸びる
なみなみ	並々	並々ならぬ		延ばす	開会を延ばす
ならう	倣う	前例に倣う			支払いが延び延び
ならびに(接続詞)	並びに	(a及びb)並びに(c及びd)	のべる	延べる	になる
なりたつ	成り立つ		のべる	伸べる	布団を延べる
なりゆき	成り行き		のむ	飲む	救いの手を伸べる
なる	成る	△為る	【は】		△呑む
		本表と付表とから	はあく	把握	
		成る	はいぜん	配膳	
	なる	1万円になる			

見出し	表記	備考			
はいる	入る		はば	幅	△巾
はえる	栄える	見栄え, 出来栄え	はばかり	はばかり	△憚る
はがき	はがき	△葉書	はばむ	阻む	
はがす	剥がす	剥ぐ	はやい	早い	時期が早い
はかどる	はかどる	△捗る			矢継ぎ早
はからずも	図らずも		はらいもどし	払戻し	流れが速い
ばかり	～ばかり	こればかり ～するばかり	はらいもどす	払い戻す	テンポが速い
はかる	図る	合理化を図る 解決を図る	はる	張る	リンクを張る
	計る	時間を計る 計り知れない恩恵	はれる	貼る	シールを貼る
	測る	距離を測る 面積を測る	はんてん	腫れる	※腫らす
	量る	目方を量る 容積を量る	はんようせい	斑点	
	謀る	暗殺を謀る	はんれい	汎用性	
	諮る	審議会に諮る	【ひ】	凡例	
はぐくむ	育む	育んだ, 育み	ひいては	ひいては	△延いては
ばくぜん	漠然	漠然とした	ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
ばくだい	ばくだい	△莫大, [多大]	ひごと	日ごと	△日毎
はさむ	挟む	挟み込む	ひごろ	※日頃	
はじめ	はじめ	～をはじめ	ひづけ	日付	
はじめて	初めて	初めての経験	ひとかたならぬ	一方ならぬ	
はじめる	始める	会を始める 始めから終わりま で	ひとしお	ひとしお	△一入
はず	はず	△筈 できるはずがない	ひとしく	ひとしく	△斉しく
はずう	端数				全員ひとしく賛成 した
はずれる	外れる	町外れ, 外す 踏み外す	ひとそろい	一そろい	△一揃
はたして	果たして	果たして～だ	ひとたび	一たび	△一度
はつらつ	はつらつ	△撥刺	ひととおり	一通り	
はで	派手		ひとまず	ひとまず	△一先ず
はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った 話し合いながら	ひとり	一人	一人っ子 一人一人
はなはだ	甚だ	甚だ大きい 甚だしい			△一人ひとり
			※序数として使う 場合	1人も可	1人目・一人目
			ひとわたり	ひとり	独り占め
			ひゆ	ひとり	△一渡り
			ひよく	比喩	
			ひょうき	肥沃	
				表記	表記の金額
				標記	国語の表記 標記のことについて

見出し	表記	備考	ふんいき	雰囲気	
			【へ】		
ひらく	開く	窓を開く，未来を開く，△拓く	へいそく	閉塞	
			ページ	ページ	△頁(論文中、図等を示す際は使用)
ひろがる	広がる	△拡がる	べき	べき	△可き
びんせん	便箋		へきち	へき地	そうすべきである
ひんばん	頻繁		へた	下手	△僻地，[辺地]
【ふ】			べんたつ	べんたつ	△鞭撻
ふ	附	附則，附属，附帯 附置，寄附	【ほ】		
	付	付記，付随，付与 付録，交付，給付	ほう	方	先方，方針，諸方 君の方
ふう	風	洋風，学者風の人	ぼうだい	膨大	△厩大，[多大]
	～ふう	こういうふうに造る 知らないふうを装う	ほうる	放る	
			ほか	ほか	原則ひらがなで ほかの意見，ほかから探す
ふえる	殖える	財産が殖える		他(た)	
	増える	人数が増える		外	思いの外 *殊の外
ふく	拭く		ほしい	欲しい	金が欲しい 欲しがる
ふさぐ	塞ぐ	塞がる	※～してほしい	～してほしい	見てほしい
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい	(補助用言)		
ふじゅうぶん	不十分	△不充分	ほそく	補足	
ふせん	付箋			捕捉	人工衛星を捕捉する
ふたたび	再び				
ふだん	ふだん	△普段 ふだん考えている こと	ほど	程	程遠い，程なく 身の程
ふっしょく	払拭	拭く，拭う		ほど	先ほど，後ほど 今朝ほど
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて	ほとんど	ほとんど	少ないほど良い
ふりがな	振り仮名		ほにゅうるい	哺乳類	△殆ど
ふるう	振るう	腕を振るう 事業が振るわない	ほぼ	ほぼ	△略
	震う	声を震わせる 身震い	ほまれ	誉れ	
	奮う	勇気を奮う 奮い立つ	ほめる	褒める	△誉める
ふるって	奮って	奮って参加ください	ほんとう	本当	本当の話，本当に
			【ま】		
ふれあう	触れ合う		まいしん		△邁進
ふれる	触れる				

見出し	表記	備考			
まぎわ	間際	出発間際	みいだす	見いだす	△見出す
まことに	誠に	誠に重要な問題である	みきわめる	見極める	△美事
まさに	正に	△真に, △実に 正に指摘のとおりである	みごと	見事	自ら名のり出る
まさる	勝る	△将に, △方に △優る	みずから	自ら	
まして	まして	△況して	みぞう	未曾有	△充たす
まじめ	真面目	*「まじめ」も可	みたす	満たす	△妄に, △濫に
まじる	交じる	漢字仮名交じり文	みだりに	みだりに	△路, 径, 途
まず	まず	△先ず	みち	道	
ますます	ますます	△益々 ますます増加する	みっか	三日	
また	又	又の機会, 又聞き	みつける	見付ける	△見なす, 見做す
また(接続詞)	また	また, ~	みなす	みなす	△見難い
または(接続詞)	又は	※a 又は b (a若しくはb) 又はc	みにくい	見にくい	△身につける
まちがい	間違い		みにつける	身につける	
まちがう	間違う	真っ赤, 真っ青	みのがす	見逃す	△観る, 看る, 視る, 覧る
まっさき	真っ先		みる	見る	遠くの景色を見る
まったく	全く	△完うする			面倒を見る
まっとうする	全うする	△迄			患者を診る, 脈を診る
まで	まで	○日まで △真似			見てみる
まね	まね		【む】		
まもなく	間もなく	△希, 稀	むしろ	むしろ	むしろこの方が便利だ
まれ	まれ	世にもまれな話			△寧ろ
まわり	回り	△廻り 身の回り, 胴回り 回る, 回す 池の周り	むずかしい	難しい	無造作に描く
まんなか	真ん中	周りの人	むぞうさ	無造作	無駄話
【み】			むだ	無駄	
み(接頭語)	み~	△御~, み霊, み代	むとんちやく	無頓着	△空しい, 虚しい
み(接尾語)	~み	△~味 弱み, 有り難み	むなしい	むなしい	その旨, 了承されたい
			むね	旨	△無闇, 無暗
			むやみ	むやみ	むやみに言い触らす
			むろん	無論	無論正しい
			【め】		
			めあて	目当て	*授業や指導においては「めあて」と仮名表記

見出し	表記	備考	もと	下	れる
めいめい	銘々	銘々に分ける		元	法の下に平等
めいりょう	明瞭			本	～という理念の下
めがね	眼鏡			基	火の元, 出版元
めぐる	巡る	寺を巡る			本を正す
	めぐる	課題をめぐって	もの	～もの	資料を基にする
めざす	目指す	△目ざす			基づく
めざましい	目覚ましい				正しいものと認める
めった	めった	△滅多		物(物体として	～を示すものである
		めったやたらに		存在する物)	物を大切に扱う
めでたい	めでたい	△目出度い		者(人間)	18歳未満の者
めど	めど	△目処	もより	最寄り	最寄りの駅
めやす	目安		もらう	もらう	△貰う
めんどう	面倒	御面倒をお掛けします			～してもらう
【も】			もらす	漏らす	本音を漏らす
もうしあげる	申し上げる		もろもろ	もろもろ	△諸々
もうしあわせ	申し合せ	申し合わせる	【や】		
もうしこむ	申し込む		やかましい	やかましい	△喧しい
もうしこみ	申込み	申込書	やくわり	役割	
もうしわけ	申し訳		やさしい	易しい	易しい問題
もうら	網羅			優しい	優しい心遣い
もくと	目途	年末完成を目途とする	やすい	安い	
				～やすい	△易い
もくろみ	もくろみ	△目論見	やっかい	厄介	読みやすい
もし	もし	△若し	やむをえず	やむを得ず	
もしくは(接続詞)	若しくは	(a 若しくは b) 又は c	やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布
もたらす	もたらす				物柔らかな態度
もちろん	もちろん	△勿論		軟らかい	表情が軟らかい
もつ	持つ, もつ	責任を持つ	やわらぐ	和らぐ	軟らかな土
	※教科・領域等の指導要領解説に準ず	(物を手に)持つ	【ゆ】		気持ちが和らぐ
			ゆいしよ	由緒	
もって	もって	△以って	ゆうゆう	悠々	悠々自適
		～をもって	ゆえ	故	故あって, 故なく
もつとも	最も	最も大切		～ゆえ	一部の反対のゆえ
	もつとも	もつともな御意見です		ゆえに	にはかどらない
もつばら	専ら	専ら仕事に力を入	ゆえに(接続詞)		それゆえ
					ゆえに, ~
					△故に

見出し	表記	備考
ゆがむ	ゆがむ	△歪む
ゆくえ	行方	行方不明
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い (評価)	よさ, よりよい (文科省の表現はひらがな)
	～(て)よい(許可)	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛かる
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る, 因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら, 我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国, 我が家
わかる	分かる	△解る, 判る 気持ち分かる
わけ	訳	訳がある, 申し訳ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす
	患う	胸を患う
わたくし	私	私事
わたし	私	

わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	2行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々, 我ら

【付録】 公用文における漢字使用等について (文化審議会国語分科会作成)から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

(例) 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

(例) 副詞

余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず, 必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に, 少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して, 絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努めて, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ, 再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

(例) 連体詞

明るく, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。

(例) かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

(例) 御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶)
ごもつとも (ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

(例) げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる), み(弱み), め(少なめ)

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

(例) おって, かつ, したがって, ただし, ついては, ところが, ところで, また, ゆえに

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。

及び, 並びに, 又は, 若しくは

6 次のような複合の名詞は, 次のように送り仮名を付けずに書くこともある。

(例) 入替え, 受入れ, 打合せ, 貸出し, 貸出票, 組合せ, 組立て, 組立て方, 繰上げ, 取組, 取次, 話合い, 貼付け, 引継ぎ, 引継事業, 申出, 申込み(申込), 持家

※同一論文中では, 表記を統一する。

例: 振り取りカード, 振返りカードと混在しないようにする。